

夢 現

～ 自分と向き合う ～

愛西市立八開中学校
2年学年通信
令和3年6月30日
No. 9 (道徳)

「日本人が昔から大切にしてきた、伝統や文化に対して私たちができることはどんなことだろう」

～道徳「しょうゆのふるさとを訪ねて」を通して考えました～

アメリカ・サンフランシスコ支社で勤務していたころ、取材でアメリカ人新聞記者と知り合った。ある日彼に「しょうゆがどのように製造されているか知っているか」とたずねられ、私はほとんど答えられなかった。そのことが頭から離れず、数年後日本に戻った私は、しょうゆのふるさと湯浅町に向かった。取材をして「しょうゆができるまでの過程」、「製造者がしょうゆにける思い」、「今後の伝統産業について」などについて知ったのでした。

授業では、「私がしょうゆのふるさと湯浅町に向かった理由」、「取材を通して学んだこと」から、テーマについて考えました。

●● ●●くん

世界の人々が日本の文化を知ってくれているのなら、日本人も世界の文化をもっと知るべきだと思った。

●● ●●さん

伝統を守るためには、強い意志が必要だと思う。意思がない人は、その伝統文化の大切さや存在している意味が分かっていないと思う。

●● ●●さん

今回のように、日本人なのに外国の人より知らない。だからこそ、特有の文化を知り、その存在をたくさんの人に広げていけたらすごいなと思う。そのためには、興味をもち、文化などを守っていこうという意思をもっていきたい。

●● ●●くん

伝統や文化を守るために、まずは、伝統を文化について知り、地域行事などを利用してつなげていくことが大切だと思う。自分も地域の伝統文化を守っていけるようにしたい。

●● ●●さん

今回の話のように「私」がアメリカの記者の言っていたこと、日本人なのに知らないということは多いと思った。また、身近なことでも知らないことはあると思うので、まずは、興味をもって考えてみようと思った。

●● ●●さん

今は、外国の人でも日本文化に興味をもつことが増えた。自分は、伝統やその地域ならではのものとかを大切にしていきたいと思っている。だから、「意思を雇いたい」と言った店主の言葉に驚いた。普通なら、後世に残していきたいし、若者が伝統への関心をあまりもっていないから、「意思を雇いたい」とは言わないだろう。労働力を雇う中で、意思を雇いたいと考えるのが自然じゃないだろうか。それでも、意思を大切にする店主に、ひどく胸を打たれた。自分も伝統を伝えていくのなら、意思を重視してやっていきたい。

